



# 公共交通を支える理由

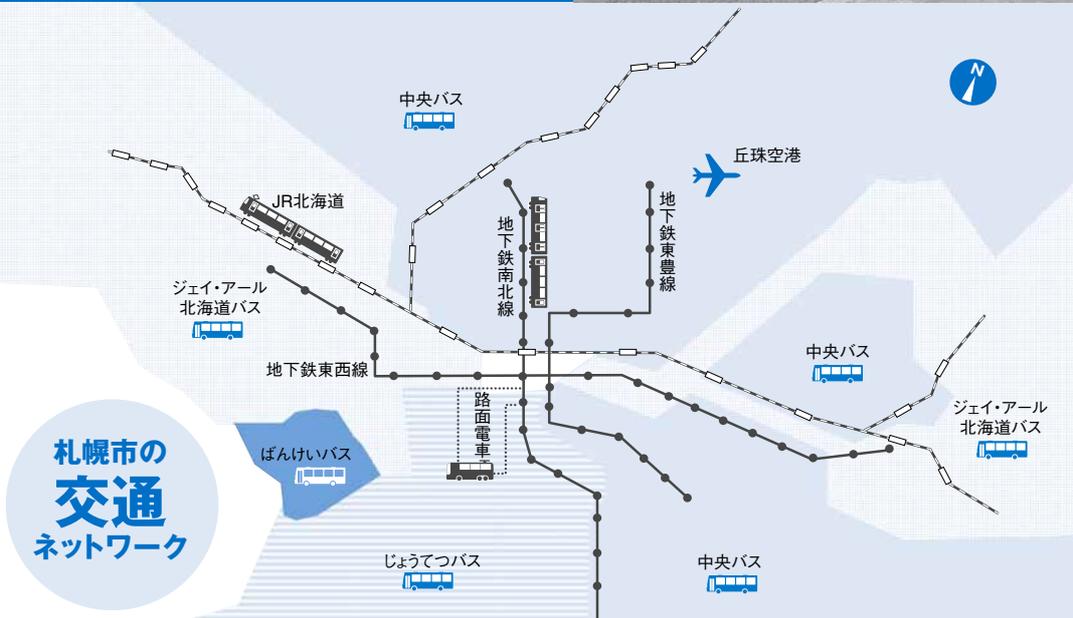
私達が



明治13年、札幌～手宮間の鉄道開通に始まり、まちの発展とともに充実を続けてきた、札幌の交通ネットワーク。しかし近年は、自動車交通の増加などに伴い、利用者が減少し厳しい状況に置かれています。

それでもなお、支え続ける意味は何なのか。今回の特集では、そうした市内外の交通ネットワークに焦点を当て、その存続のために私たちができることについて考えていきます。

この特集に関するお問い合わせは 都市交通課 ☎211-2492





# 雪の日もお祭りも 地下鉄だから 快適に出掛けられる。

市営地下鉄は、札幌オリンピック直前の昭和46年、南北線の開通を皮切りに、東西線、東豊線の新設や延伸が進められてきました。開業40周年を迎えた現在、総延長は48kmに達し、雪にも強い生活に欠かせない足として、また、大都市札幌の成長を支える大黒柱として活躍しています。

地下鉄  
DATA

- 利用者数/1日約56万人(平成22年度)
- 運行本数/1日1,002本(平成22年度)

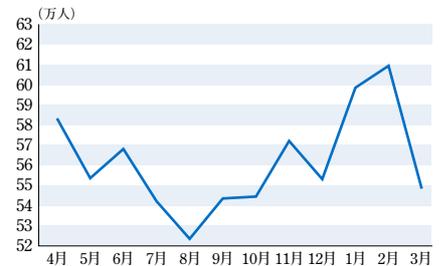
意義

## 屈指の正確さを誇る 積雪大都市の大動脈

地下鉄の最大の魅力は、正確かつ頻繁なダイヤ。朝のラッシュ時には約4分間隔、日中も約7分間隔で運行しています。天候に左右されず、予想外の渋滞や駐車場待ちの心配もないため、予定通りに目的地まで移動することができます。

雪の影響を受けないその便利さにより、地下鉄沿線には人口が集中し街が発展。積雪大都市札幌の成長に大きく貢献しています。

■一日平均乗車人員の月別推移(平成22年度)



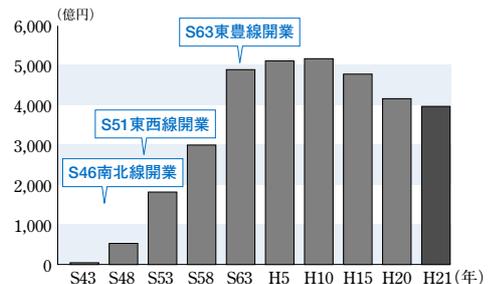
雪に強い地下鉄は冬になると利用者が増加。お盆休みなどで通勤・通学客が減る8月は落ち込みが激しい

課題

## 多額の借入金 と利用者数の伸び悩み

地下鉄の乗客数は、建設当初の見込みを下回り、乗車料収入は停滞しています。一方、総建設費は約7千億円に上り、平成21年度末で3,992億円の借入金を抱えています。業務の外部委託化などで経営の効率化を進めていますが、借入金の元金と利息の返済が大きな負担となっているため、返済の一部は、市の基本的な事業の経費を支出する一般会計からの補助金により行っています。

■借入金(企業債)残高の推移



借入金残高は増加していたが、路線の新設などが落ち着き、平成10年をピークに減少に転じている

取り組み

## 乗客数を増やすため さらに便利に、安全に

厳しい経営状況ですが、市では地下鉄の利便性をさらに高める取り組みを進めています。今夏には全駅へのエレベーターの設置が完了。25年度にはICカード乗車券SAPICAがバスと路面電車でも使用可能になるほか、30年度には転落を防ぐホーム柵を全路線に完備します。ドニチカキップなどのお得な乗車券も発売していますので、市内のお出掛けには、ぜひ地下鉄をご利用ください。

### ICカード乗車券「SAPICA」



地下鉄の利用金額の10%がポイントとして貯まる割引サービスのほか、クレジットカードからの自動入金や、各駅で定期券の継続購入が可能など、便利な機能が満載。



# 家のそばから、街の中まで、札幌にはバスがある。

市内に初めてバスが走ったのは大正時代。その後、昭和5年に市営バスの運行が始まりましたが、昭和40年代から厳しい経営環境が続き、平成16年には全路線を民間事業者に委ねました。札幌市は事業者への補助などを通じて、路線の維持に努めています。

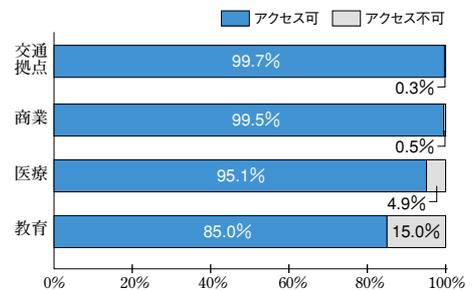
バス DATA ●利用者数/1日約29万人(平成21年度)  
●運行便数/1日13,882便(平成22年度)

## 意義

### 住まいと街をつなぐ きめ細かい地域の足

バスの強みは、全160路線に及ぶきめ細かいネットワーク。駅などの交通拠点、医療施設や商業施設へは95%以上がバスで到達できます。また、地上を走るため乗降も手軽。低床車両も順次導入されており、高齢者にも優しい乗り物です。このほか、地下鉄麻生、真駒内、発寒南駅やJR手稲駅などから出る午前0時以降の深夜便といった、便利なバスも運行しています。

バスで行くことのできる施設の割合



地下鉄駅などの交通拠点へはほぼ100%、商業・医療施設へも9割以上がバスで行くことが可能

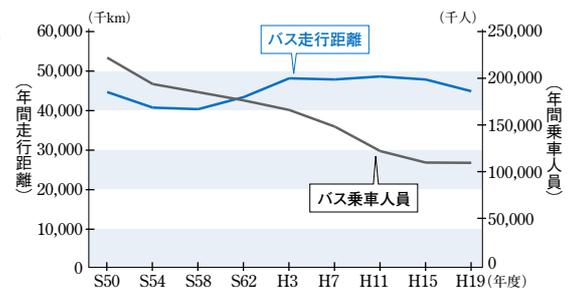
## 課題

### 利用者減に歯止めがかからない

バスの利用者数は近年、減少傾向が続いています。その主な理由は、自家用車の保有台数が昭和50年から約3.5倍に増えるなど、車社会が進展したことに加え、少子化によりバス通学者が減少したことなどが挙げられます。

平成14年の規制緩和により、バス事業からの撤退がしやすくなったこともあり、採算の取れない路線を維持していくことが困難になっています。

バスの年間乗車人員と走行距離の推移



乗車人員は減少する中、バスの走行距離は横ばいで維持されているため、経営は苦しい状況

## 取り組み

### 路線を守るための 利便性の向上と支援

採算の取れない路線でも、市民生活に欠かせない足であれば、運行を続ける必要があります。そこで市では、平成21年に新たな補助制度を創設し、赤字路線に対し、約7.5億円の補助を行っています。事業者も、効率的で使いやすいバスの運行に取り組んでいますが、何よりも皆さんの積極的な利用が、バス路線の維持には欠かせません。

#### この春に新設「創成川公園線」



新名所である創成川公園の沿道や、北海道四季劇場の前などに停車。札幌駅ともつながり、都心内の細かな移動に便利な路線です。

# 市内外の移動を支える JR

市内に26駅があり、函館線、千歳線、札沼線の3線を運行するJR。札幌と各都市を結ぶとともに、市内の移動手段としても定着しています。



＜ J R DATA ＞ ●利用者数／1日約19万人（平成21年度）  
●運行本数／1日896本（平成22年度、特急などを含む）

意義

## 多様なダイヤで 速く、正確に

JRの駅間の平均距離は約2kmで、地下鉄の約2倍。快速列車などダイヤも多様で、長い距離を速やかに移動できます。市民だけでなく、各都市から札幌に来るビジネス・観光客にも欠かせない交通機関です。

課題

## 誰にでも より優しい鉄道に

市内の乗客数は増加しており、機能のさらなる充実を進めています。市では、札幌・白石駅などのバリアフリー化や、札沼線の電化による所要時間の短縮など、サービスの向上に、JRと共に取り組んでいます。



### ICカード乗車券「Kitaca」

改札機にタッチするだけで通過でき、電子マネー機能も付いています。平成25年度には地下鉄やバスなどでも使用できるようになる見込みです。

意義

## 地上で乗る気軽さと 分かりやすさ

地上で乗降する路面電車は、行き先が分かりやすく、階段による上下移動が少ないため、観光客や高齢者でも気軽に利用できます。また、デザイン性に優れた車両の導入などで、新たな魅力の創出が期待できます。

課題

## 全ての人にとって 使いやすい市電に

路面電車は、市民の生活の足として重要な役割を担っていますが、近年、乗客数は減少傾向にあります。車両はバリアフリー化が進んでおらず、超高齢社会を見据えた低床車両の導入を行うなど、誰もがさらに利用しやすくなることが求められています。



### 活用に向けた市民議論

昨年12月開催の「路面電車の活用を考える市民会議」では、札幌のまちづくりに路面電車をどのように活用すべきかについて、市民による白熱した議論が行われました。

# 広がる可能性 路面電車

昭和2年に市電として営業を開始した路面電車。将来のまちづくりへの活用が期待できる交通機関として、市民議論を交えた検討が進んでいます。



＜ 路面電車 DATA ＞ ●利用者数／1日約2万人（平成22年度）  
●運行本数／1日311本（平成22年度）



# 北海道の空をつなぐ 丘珠空港

昭和17年に設置された丘珠空港。昭和31年から旅客機の運航を開始し、札幌と道内の各都市を結んできました。平成22年のA-net<sup>\*1</sup>の新千歳空港への移転に伴い、利用者が減少しましたが、この6月からHAC<sup>\*2</sup>が新千歳空港発着路線を丘珠に集約することを決定。引き続き道内航空ネットワークの拠点としての役割を担っていきます。

※1:株式会社エア・ニッポンネットワーク ※2:株式会社北海道エアシステム

＜ 丘珠空港 DATA ＞

- 利用者数/1日約430人(平成22年度)
- 運行便数/1日22便(平成23年6月から)

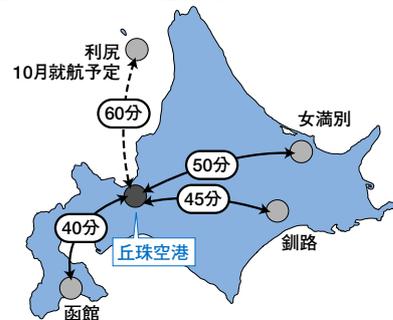
意義

## 都心から近く、 圧倒的な速さで都市を結ぶ

都心から直線で約6キロの至近距離にある丘珠空港。バスを利用すれば都心から30分、地下鉄栄町駅から5分でアクセスできます。

函館、釧路、女満別との定期便が発着しており、札幌と道内の各都市を1時間以内で結ぶことから、道内のビジネスをはじめ、通院や医師派遣などに利用される、航空の拠点になっています。

■丘珠空港の発着路線



今年10月から新たに利尻線が就航予定であり、道内の航空ネットワークはさらに広がる

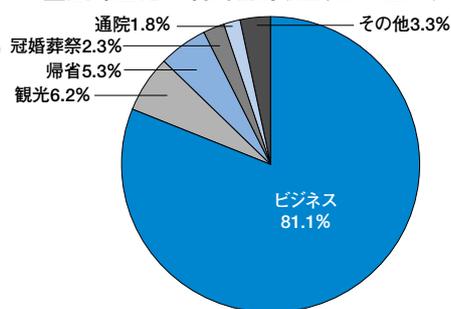
課題

## 利用者を増やすため、 より便利で親しまれる空港へ

市は、札幌と道内各都市を結ぶ航空ネットワークを支えていくべきであるとの考えから、道内の他の自治体や経済界とともにHACに出資しました。

今後は、丘珠空港の身近さや便利さを、市民によりよく知ってもらい、利用者数を伸ばすことが必要です。移動時間の短さを生かした観光利用をPRするなどの取り組みを、関係機関と共に続けていきます。

■丘珠空港の利用目的 (H22年度北海道調べ)



ビジネス利用が全体の8割を占める中、観光利用は1割に満たない

## 公共交通を生活に取り入れることが まちの将来にとって必要です

今回紹介した公共交通は、いずれも高齢化の進む札幌の将来にとって、欠くことのできない貴重な財産であり、多くの市民の方が「札幌を好きな理由」として「公共交通機関の充実」を挙げています。ぜひ、これらの交通機関を生活の中に取り入れ、市内外の移動に利用してみてください。誰もが安心して移動できる、札幌の公共交通を支えるために。

地下鉄、JR、  
バスの時刻  
などが分かる  
「えきバス・ナビ」



地下鉄、バスなどの時刻表や乗り継ぎ経路の情報を、発着駅や最寄りの施設などから検索できます。  
(パソコン) [ekibus.city.sapporo.jp](http://ekibus.city.sapporo.jp)  
(携帯電話) <http://ekibus.city.sapporo.jp/m/>

